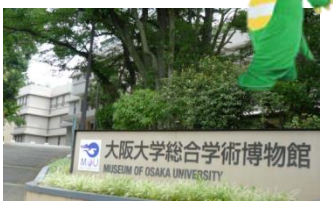
～古代・戦国・近代の歴史めぐり～『豊中 待兼山・刀根山地区』



阪急石橋駅から大阪大学豊中キャンパスに向かう途中に「大阪大学総合学術博物館」がある。1964年に阪大の新校舎建設工事中現場で発見された「マチカネワニ」の化石が展示されている。約45万年前に、日本にも野生のワニが生息していたことを証明する、学術的にも価値のある化石である。現在では赤道近くにしか生息しないワニが、なぜ豊中にいたのか？ 45万年前に待兼山で何が起こっていたのか？ 古代の謎に迫って見ませんか！

マチカネワニの骨格レプリカ

別のフロアでは、旧大阪帝国大学に学び、近代科学の発展に貢献したノーベル物理学賞の湯川秀樹氏やハ木アンテナのハ木秀次氏らの功績を紹介、また1950年代の真空管式電子計算機や国産初の電子顕微鏡などが展示されている。往年の技術者魂が甦ってくることでしょう。

ベルト駆動の旋盤も展示

知的好奇心に満たされたあとは、博物館に併設のカフェや、一般人も利用できるキャンパス内の学食（レストラン）で食事も楽しめます。

刀根山城 由緒碑

次は、阪大構内を通り抜け、中国道を渡れば刀根山地区です。この辺りは、約400年前に織田信長が荒木村重（有岡城）攻略の本陣とした「刀根山城」があったとされている。城の本丸跡とも伝わる常楽寺境内には城跡の由緒碑があり、周辺には北向き地蔵・首なし地蔵・出口地蔵などの地蔵群も点在する。

首なし地蔵（台座は道標）

陣砦の可能性を探って歴史散歩はいかがですか。

豊中1 地区委員 斧田 忠幸（記）

待兼山・刀根山地区 散策Map

博物館内の展示物は撮影禁止のため写真掲載できませんでした。
ご自分の目でお確かめ下さい。
TEL 06-6850-6284

散策ルート
石橋⇔柴原
⇔蛍池

キャンパス内のおしゃれな学食

誰の銅像？

国際色豊な構内
（留学生も多い）

狭い路地を覗くと‥
刀根山城の城壁か？

中国道に面した
「出口地蔵」

旧能勢街道周辺の地蔵